

学校全体での 環境教育の取り組み

生ゴミ処理機

「ハット君」の活用

本校では『花いっぱい、緑いっぱい、生き物いっぱい、優しい』つばいのビオトープ小緑小』をスローガンに様々な環境教育の取り組みを行っている。その中でも家庭や地域が一体になって取り組んでいるのが、生ゴミ処理機（愛称『ハット君』）を活用しての「家庭・地域のゴミ減量と生ゴミの堆肥化」である。

児童や、地域の方々が朝、生ゴミをレジ袋などに入れて学校に持ってきて、所定のポリバケツに入れる。これを月・水・金の週三回、保護者や地域の有志の方で組織したボランティアサークル「森口原グリーンハットの会」の皆さんが、紛れ込んでいるビニルや金属などの処理のできないものを選別し水切りをして処理機に投入する。火・木は児童会を中心に清掃時間に同様の活動を行っている。家庭の生ゴミ以外にも給食で食べ残し

たものや、リサイクルできない紙ゴミなども処理している。

このようにしてできた堆肥は、学校のプランターや花壇で活用しているだけでなく、地域の方々や自治会、近隣の学校にも使ってもらい、学校や地域の緑化・美化に積極的に役立てている。また、児童やボランティアの皆さんで力を合わせ、丹精込めて育てた草花を地域の自治会館などに寄贈して地域の花いっぱいにも協力している。これらの活動を行うことにより、朝の活動で草花の手入れや水あげを進んで行う子どもが増えてきている。また、初めは生ゴミを持つ



家庭から生ゴミを持ちよる児童

てくることをいやがっていた子ども達も、今では気にせず持つようになるようになってきている。さらに、家庭からの声として「ゴミ収集日に出すゴミが三分の一になった」「ゴミ袋が軽くなった」という声も多く聞かれるようになってきている。

『地域クリーン活動』の実施

校区の歩道や公園を、全学年で分担し清掃する「地域クリーン活動」を、総合的な学習の時間の活動として、保護者の協力を得ながら実施している。この活動は、単に地域のゴミを片付けるということだけに目的があるわけではない。清掃活動を通して子ども達一人ひとりが「どうしてゴミがこれほど多いのか」、「なぜゴミを道や公園に捨てるのだろうか」という素朴な疑問を持たせるところにある。歩いているだけでは意外と目につきにくいゴミも、いざ自分が拾ってみると驚くほど多いことに気づいていく。この疑問や気づきが基となり「ゴミを道に捨ててはいけない」という当たり前のことを実感として理解し「ゴミを捨てない子どもになる」事を目指している。



常設展示している野鳥の写真

校内に学習環境作り

校内には、ポイントポイントにチヨウや草花、野鳥の写真がパネルなどにして常時掲示されている。これらは全て本校で見ることのできるもので、子ども達が野鳥やチヨウの写真を見ながら「見たことがある」「知ってる知ってる」などと、おしゃべりをする姿をよく見かけるようになった。また、意識して名前を覚えようとする子や、覚えた野鳥をさがそうと子どもが多くなっている。野鳥の写真のそばにはCDラジカセを設置しており、いつでも鳴き声やさえずりが聞けるようになっていく。

※野鳥の写真は、沖縄野鳥の会の宮城国太郎氏に提供していただいた。